



家族(後編) ~将来の夢は何ですか~

校長 荻上 晃司

1月号に引き続き、今回も家族について取り上げたいと思います。3年生との校長面談の中では、必ず「あなたの将来の夢は何ですか」という質問もしています。ここでも、生徒の回答に家族が登場してきます。家族のことを語っている時は、事前に用意した回答を思い出して言うのではなく、堂々と自分の家族に誇りを持って語ってくれます。「両親のように、仕事で疲れていても私たちの前ではそれを見せない家族思いの人になりたいです。」「母のように、仕事で疲れていても当たり前家事をこなし、家族が規則正しい生活を送れるようサポートし、私や姉が困っている時は、親身に相談に乗ってくれる等、自分のことより家族を優先する行動ができる人になりたいです。」「父のように、会社で上司にも部下にも慕われる人格者になりたいです。」「家族4人全員で一緒に仕事をしたい、という父の夢を叶えたいです。」「早く母の仕事を継ぎ、母を楽にしてあげたいです。」「一級建築士になっていつもお世話になっている祖父母の家を建て替えたいです。」といった家族の愛が溢れ、家族の絆や温もりが伝わってくる話を聞いた時は、そのことを直接伝えたことがあるか、質問しています。恥ずかしくて伝えたことがない生徒がほとんどです。卒業証書授与式の日には、感謝の気持ちと共にその夢を直接伝えるよう促しています。手紙で伝える方法もあると思います。

『中学生の夢 47都道府県47人の中学生の夢』(いろは出版)という本に掲載されている、徳島県の中学3年生が書いた手紙を紹介します。この本は、本校の図書室にもありますので、他の中学生が書いた作文も是非読んでみてほしいと思います。きっと心が温められると思います。

ありがとう

わたしは、自分の母が好きではない。いちいち首をつっこんで来て、あれこれうるさく言うから好きでない。反抗期だからだろうか・・・学校のことや勉強のことはもちろん、「お風呂入れよー」とか「歯磨きしろよー」などの日常的な会話でさえも母から言われると猛烈に腹が立つ。「もうっ！うっとおしい！いちいち干渉してこんといて！ほっとしてよ！！」と何度もわめいて、あばれちらすのに母は全然やめようとしません。

今では、私は家でほとんど口をきかない。「ってきます」も「ただいま」も「ありがとう」もなにも言わない。母はこんな私に頭を抱えているだろう。

わたしは今、母が好きではない。・・・でも本当は大好きだ。

わたしが学校で体調をくずして早退しておばあちゃんの家に行くと、必ず仕事を途中でやめて1時間近くかけて様子を見に来てくれる。わたしはそれが本当に嬉しい。

「わざわざこんでいい」と言っているけど本当はすごく嬉しいし、安心できる。

今はまだ照れくさくて言えないけど、もう少し大きくなったら母に「ありがとう」と言いたい。そして、今まで一度も何もしたことの無い、5月14日の母の日と2月23日の誕生日に何かどぴきり豪華なものをプレゼントしたい。ちっぽけだけど、それが私の夢だ。

将来の夢を質問すると、自分が就きたい職業について思いを語る生徒が多いのですが、家族のために何かをしたいという夢もあります。2年生は1年後に、1年生は2年後にどんな夢を語ってくれるのか、今から楽しみです。

3月15日に令和2年度川口市立里中学校第43回卒業証書授与式を保護者の皆様が見守る中で挙げる。そして、卒業生一人ひとりが新たなスタートラインに立つその日に、家族に今までの感謝の気持ちを伝える。これが今の私の夢です。